

令和6年度 武蔵野市特定非営利活動法人補助金交付事業報告シート

団 体 名	特定非営利活動法人 KITARU
アドレス（HP、ツイッター、FB等）	Web https://kitaru.or.jp/ X @npo_kitaru
事業の名称	ライフステージに応じたメンタルヘルス福祉教育ワークショップ
事業の目標	WHO は、「健康面の負担を強いる疾患第1位と予測」という、メンタルヘルスの不調が、暮らしの中で大きな負担となる可能性を示唆している。そしてその不調には、いじめ、不登校など、若年層のメンタルヘルスと深く関係する深刻な課題が浮き彫りとなっている。さらに年齢を重ねるにつれ、職業生活の中で精神疾患を発病したり、それによって生活が困窮したり、その結果、社会から孤立していくということも明らかとなった。このように、それぞれの年代に応じてメンタルヘルスへの理解を深める機会は、重要であると考えられる。 そこで、年代による違いに主眼を置いた福祉教育を実施し、それぞれのライフステージに応じた、メンタルヘルスへの理解の広がりを目指し事業を実施した。
事業の内容（概要） いつ、どこで、誰に、何を、どうした	① 令和6年10月14日（月）で、MUSASHINO BLOCK CAFE -LEGO®SERIOUS PLAY®メソッドを活用したワークショップ- を開催した。開催にあたっては、世界メンタルヘルスデーに近い日程で決定した。また、安心安全な穏やかな空間で実施をしたいと計画していたこともあり、コワーキングスペース Breath をお借りした。 内容は、レゴブロックを使って行い、前半はここを落ち着かせるための時間として、テーマを定めず自由にブロックに触れる時間を取り、後半はレゴシリアスプレイ（以下、LSP という）というレゴブロックを使ったワークショップを行った。LSP では、ご自身を取り巻く環境を森に見立てて、その中でのご自身の姿勢や想いを話し合うプログラムを行った。 ② 令和7年1月10日（金）武蔵野大学社会福祉学科の大学生を対象としたメンタルヘルスから探究する福祉教育～こころの色と精神障害を経験した当事者の語りを通じて～を開催した。内容は東京国際大学松本すみ子教授、精神障害を経験した当事者に講師を依頼し、色紙を使ってこころを色に表すワーク、こころのコンディションやストレス、ステレオタイプについての講義、当事者の語り、語りでの印象の共有やそこから思い浮かぶ社会課題をグループで話し合った。
事業の成果（参加人数、実施回数、質など具体的に記入。）	① MUSASHINO BLOCK CAFE は参加者16名で行った。アンケート結果からは、ブロックを通じて、異なる価値観に触れる機会となったという意見が多数あった。 ② メンタルヘルスから探究する福祉教育は、大学3年生40名が参加。障害のある個人のみならず、周囲の環境への視点や、グレーゾーンの人に対するサポートの重要性に着眼した学生が多数いた。

令和6年度 武蔵野市特定非営利活動法人補助金交付事業報告シート

目標の達成度 (自己評価)	☐ 1. 達成できた ☐ 3. あまり達成できなかった ☒ 2. ある程度達成できた ☐ 4. 達成できなかった
自己評価の理由 ※公益性の増進、団体の発展性、実効性、補助金を除く資金調達の達成度などについて、具体的に記入。	MUSASHINO BLOCK CAFE では、自身のころに関心を向ける時間の提供、参加者自身を取り巻く環境に焦点をあて、その中での想いや他者との違いに触れる機会となった。LSP を使うことで、対話を通じて他の参加者との違いに気づき、参加者一人ひとりの姿勢に対する振り返りの機会となった。 また、メンタルヘルスから探究する福祉教育は、社会人目の大学生自身が、自らのころを内省する時間となった。さらに、これから社会福祉を生業にする可能性がある学生同士が、当事者の語りを通じて社会課題に気づくきっかけとなる機会になった。
今後の課題・抱負	もともと、ライフステージに応じたメンタルヘルスとしては、いじめや不登校を経験する世代でもある中高生、社会人になる前にあたる大学生、様々な異なる経験を積む社会人とライフステージを整理して企画をしたが、今回は、中高生への福祉教育を実施することができず、課題が残る結果となった。 教育機関との関係形成には、接点をもつことへの難易度の高さを感じるため、次年度以降、地道な活動を積み重ねていきたい。
活動状況について	

